



ごみ袋は市販の45ℓ以下の透明または半透明のものを使ってください。

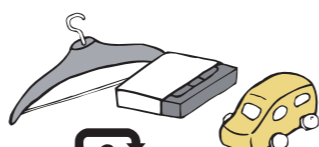
●生ごみ

※よく水を切ってください。料理くず、残飯、茶がら、たまごのからなど



●紙おむつ

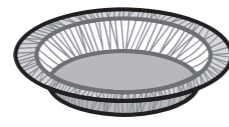
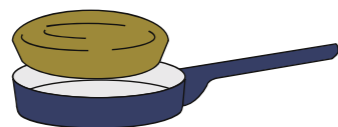
汚物をトイレに流してから出してください。



●マークのないプラスチック製品(少量の場合)

●食用油の廃油

固めたり、布や紙にしみ込ませてごみ袋に入れて出してください。



●アルミ容器

●竹串

収集時に刺さらないように、折って紙に包むなどして出してください。



●紙くず

※新聞紙、雑誌、段ボール、古布などは、地域の集団回収で再生資源としてリサイクルできます。(詳しくは18ページ)



●落ち葉、剪定枝葉(1袋まで)

※2袋以上は、「粗大ごみ受付センター」に申し込んでください。



●花火(使用済で水に漬けたもの)

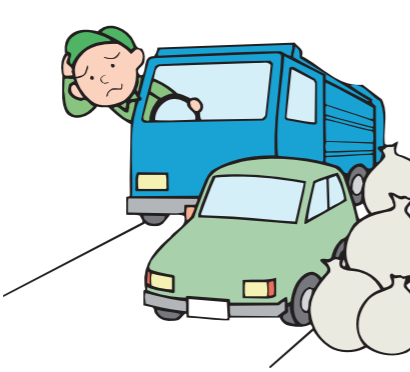


カラス対策をしましょう



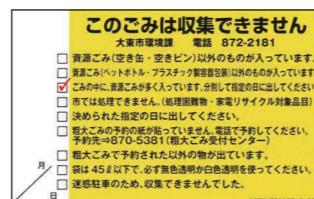
カラスがごみを散らかさないように、生ごみを出すときは新聞紙で包むなど、外から見えないようにしましょう。

迷惑駐車をなくしましょう



車を停めていると、ごみを確認・収集できない場合があります。路上の迷惑駐車はやめましょう。

収集できないごみに貼る「啓発シール」



「収集曜日ではない」「分別できていない」「粗大ごみの予約をされていない」など、収集できないごみが出ている場合は、啓発シールを貼ってごみを残します。シールのチェックされている箇所を確認し、正しくごみを出しましょう。

やってみよう！ 生ごみの水切り運動

生ごみの約80%は水分です。「水切り」をすると5~10%のごみが減量でき、ごみ焼却施設の焼却効率やごみ収集車の運搬効率が向上します。

市内の5万世帯が取り組むと、年間50トンのCO2削減が期待できます。



<水切りのポイント>

- ①野菜くず、果物の皮は洗う前に皮むきをし、水分の吸収を防ぐ。
- ②三角コーナーのごみは十分に水を切ってから捨てる。
- ③風通しの良いところで保管する。4日間で20~25%の水分が減少。

生ごみ処理機の 購入費用の一部を補助

生ごみを堆肥化し、ごみの減量と資源の有効活用を図るため、購入費用の一部を補助しています。購入前にお問い合わせください。

- 購入対象期間
平成31年4月1日~平成32年3月31日
- 補助金額
購入価格の2分の1以内(2万円を限度)で1世帯につき1基



- 補助条件
①市内在住で、堆肥を有効に利用できる人
②後日、実施するアンケート調査に協力できる人
- 補助台数(※先着順)
電動式生ごみ処理機=5基

<お問い合わせ>
大東市環境課 ☎072-872-2181 (代表)

もったいない！「食品ロス」を減らそう

まだ食べられるのに捨てられている食べ物、いわゆる「食品ロス」が日本では年間約632万トン発生しています。日本人1人当たりでは、毎日お茶碗約1杯分(約136g)のご飯を捨てていることとなります。大切な食べ物を無駄なく消費し、食品ロスを減らすため、次の取り組みをしましょう。

<食品ロス削減の工夫>

- (1)食材を「買い過ぎず」「使い切る」「食べ切る」
買い物の前に食品の在庫を確認し、冷蔵庫の保存場所は「チルド室」「野菜室」等を上手に活用して食品を長持ちさせましょう。
- (2)残った食材は別の料理に活用
中途半端に残ったら別の料理に活用するなど、食べ切る工夫をしましょう。
- (3)「消費期限」と「賞味期限」の違いを理解
「消費期限」は食べても安全な期限。「賞味期限」はおいしく食べられる期限です。
- (4)外食で食べ残しをしない
ボリュームが多い、食べられない物があるなどの理由で食べ残さないよう、小盛メニューを利用し、食べられない物は注文時に抜いてもらいましょう。



食材は使い切ろう！
おいしく食べ切ろう！

